

(11) 鬼北ブロック（鬼北町、松野町）

～産地づくり～

「水稻」は、新品種の導入や主食用米の需要に即した生産に努めるとともに、スマート農業を推進し、生産振興を図ります。果樹では、特産の「ゆず」について地域品種の普及を図り、「くり」「もも」については、(株)源吉兆庵への安定供給を実現します。また野菜においては、「きゅうり」の産地復活を後押しし、需要拡大が見込める軽量野菜生産の振興を図るとともに、農地の整備を進め、新たなビジネスや地域特産品の開発についても取り組みます。

～推進品目や産地づくりの方向～

○「水稻」の大規模経営体育成と優良農地集積に向けた環境整備

【取組】

- ① 高温耐性品種「ひめの凜」と「にじのきらめき」の普及拡大に向け、現地栽培適応性の確認や栽培講習会等での技術指導により、品質向上対策を実施
- ② 大規模経営体の育成に向け、水管理システムやドローン散布（農薬、資材、種子）、直播栽培等の省力化技術の導入のほか、肥料高騰対策として緑肥（ヘアリーベッチと根粒菌）の実証を実施
- ③
 - ・農村地域の持続的発展に向け、集落のふるさと保全計画の策定支援
 - ・農業用水確保と農村地域の防災・減災のため、ため池の改修や農業用 用排水路を整備
- ④ 主食用の需要に対応した生産、水田の有効活用を図るため、畜産農家と連携し、飼料米等の新規需要米の作付けを推進

【成果】

- ① 栽培面積
 - ・「ひめの凜」：9.3ha [R6：9.6ha、R5：7.6ha、R4：5.2ha]
 - ・「にじのきらめき」：80.5ha [R6：8.9ha、R5：6.6ha、R4：2.7ha]
- ② 省力化技術導入に向けた実証試験の実施
(導入延べ農家数 ドローン防除：6戸、湛水直播：2戸、乾田直播：1戸)
- ③
 - ・ふるさと保全計画の策定済（鬼北町2集落：R6,4）
 - ・ため池改修：3ヶ所（鬼北町） ・用排水路整備：4路線（鬼北町）
- ④
 - ・飼料用米作付面積：9.9ha
[R6：34.2ha、R5：29.9ha、R4：26.3ha、R3：23.2ha]
 - ・飼料用稲作付面積：4.1ha
[R6：10.6ha、R5：19.2ha、R4：19.3ha、R3：14.9ha]



汎用型播種機(左)での
乾田直播後の芽立ち(右)



緑肥の実証
(ヘアリーベッチ)



有機農業講習会

○ゆず「鬼北の香里」の産地化と高付加価値型栽培の実践

【取組】

- ① トゲの少ない有望品種「鬼北の香里（きほくのかおり）」の導入推進による、作業性の改善と園地の若返り
- ② 付加価値を高めるため、有機JASに準じた栽培を推進
- ③ 所得向上に向け、有機JASで使用可能な農薬散布による外観品質向上効果を実証

【成果】

- ①
 - ・「鬼北の香里」導入本数：2,078本
[R6：2,497本、R5：2,859本、R4：3,577本、R3：3,931本]
 - ・管内ゆず集荷量：1,692t
[R6：947t、R5：2,021t、R4：805t、R3：1,458t]
- ②
 - ・講習会を通じて、有機栽培で有効な生産資材の普及を推進
 - ・有機JAS栽培準拠農家：579戸
[R6：544戸、R5：614戸、R4：541戸、R3：618戸]
- ③ 黒点病等に防除効果がある銅剤を散布し、外観が優れ高単価が望める出荷規格（A品）の一定の向上割合を確認



外観品質向上の実証
(銅剤の散布痕)

〇加工用品種の栽培支援と嶺源吉兆庵への安定供給の確立

【取組】

- ① 「くり」では、高品質安定供給に向け、省力的なドローン防除等の実証や、必要な地域内オペレータの掘り起こしを推進
- ② 「加工桃」では、早期（青玉）出荷体制への移行を支援し、収穫ロス削減や安定供給を推進するとともに、省力的な有袋栽培の可能性を実証により検証
- ③ 改植障害対策として、土壌改良剤及び耐性台木の実証を継続

【成果】

- ①
 - ・ドローン防除の実証箇所数：5箇所
 - ・研修会を通じて、自動航行操作技術の習得意欲を醸成
 - ・毬剥き機（大洲市）、スマート農業事例調査（岐阜県）
- ②
 - ・生産量は、目標を3割上回る
 - ・無袋実証では着果位置や収穫時期による着色の実態を確認、加工評価では大久保の無袋果実は原料に不適と判断
- ③ 土壌改良剤、耐性台木の効果を継続確認中（障害発生株なし）



くり毬剥き機事例調査
（大洲市平野）



スマート農業事例調査
（岐阜県恵那市）

〇キウイフルーツ花粉生産技術の定着支援

【取組】

- ① 産地規模拡大に向けた、低コスト省力栽培技術の実証
- ② 核となる農家の栽培技術の向上を図り、早期成園化を推進
- ③ 花粉の採取・出荷・精製・検査体制の支援

【成果】

- ① 花粉生産量：3.54kg（R6：2.05kg、R5：1.93kg、R4：0.23kg）
- ②
 - ・収穫適期目合わせ会や各種講習会、個別巡回を通じて、栽培技術が向上
 - ・新梢先端の摘心により視認性が向上し、収穫効率が上昇
- ③
 - ・適期の収穫量増加のため、夕方収穫→翌朝出荷体制を整備
 - ・関係機関と連携のうえ、花粉出荷のための検査体制を構築



キウイ花粉増産に向けた
剪定講習会の実施

〇野菜産地の復活に向けた担い手育成と研修体制の再構築

【取組】

- ① きゅうり栽培等の先進技術の習得や、農地・ハウスの生産基盤確保等による円滑な就農を目指した研修施設と支援体制の構築
- ② スマート農業技術を導入した栽培環境や、夏場の作業環境の改善のため遮光ネット等の利用、データ駆動型農業の実践による、高い生産性と収益性の実現

【成果】

- ①
 - ・施設きゅうりのつる下ろし仕立て先進事例研修（2回）
 - ・研修生4人が円滑な経営開始に向け、基本技術等を習得中
- ② 環境モニター装置と廉価な側窓開閉装置が連動するシステムについて実用性を確認する予定



施設きゅうり先進地研修

〇地域の優れた特産品の育成

【取組】

- ①
 - ・青梅加工品開発・販売に向けた協議支援
 - ・青梅生産のため、低樹高せん定を推進
- ②
 - ・「鬼北熟成雉」において、新規生産者の掘り起こし
 - ・販路拡大に向けた、展示商談会及び産地視察対応

【成果】

- ①
 - ・関係機関で4回協議し、消費者へのアンケートを通じて商品化の方向性を確認
 - ・低樹高せん定のモデル園を2園地設置
- ②
 - ・新規生産候補者を1人確保（地域おこし協力隊、R7.4月就農）
 - ・展示商談会出展（R7.11月）及び随時産地視察への対応



展示商談会への出展

～地域づくり～

「水稻」では、規模拡大に伴う省力化技術の普及を図り、経営多角化や集落営農の組織化により、中山間地における「水稻」を中心とした農業経営の安定と地域農業の維持発展を目指します。また、農業支援センター等と連携し、認定農業者や女性等による6次産業化やグリーン・ツーリズムなど、多様な担い手が活躍できる地域づくりを推進します。また、荒廃農地拡大の最大要因となっている鳥獣被害対策に取り組むとともに、獣肉資源の有効活用に努めます。豊かな自然や豊富な食材等の地域資源を活用して都市との交流を促進します。

～推進対象や地域づくりの方向～

○大規模経営体の育成と競争力のある農業経営支援

【取組】

- ① 各町や公社と連携し、水田地帯での農地集積による荒廃農地対策を推進
- ② 優良経営体の法人化を進め、各種補助事業や新技術導入により、地域計画に位置づけられた担い手を、競争力の高い経営体に育成
- ③ 多面的機能を有する農地等の地域資源を適切に保全管理するため、地域ぐるみで取り組む共同活動を支援
- ④ 鳥獣被害の軽減を図るため、侵入防止柵設置や捕獲、処理加工施設による獣肉の有効活用を推進

【成果】

- ① 管内荒廃農地面積：31.0ha（鬼北町：18.8ha、松野町：12.2ha）
※ R2年（基準年）：34.8ha

- ② 規模拡大に向けた省力技術の導入、経営の多角化（1経営体）

③	多面的機能支払	中山間地域等直接支払
鬼北町	17組織(353ha)	16組織(99ha)
松野町	13組織(178ha)	17組織(173ha)

- ④
 - ・ 侵入防止柵の設置：8,005m（鬼北町：6,800m、松野町：1,205m）
 - ・（鬼北町）ICT捕獲機器貸出、ジビエペットフード用一時保管施設の運用開始（同町内1か所、宇和島市内3か所）
 - ・（松野町）サル大型捕獲檻設置、「NPO法人 森の息吹」がペットフードブランド『FOR DOGS』の商品ラインナップを拡充



設置作業中のサル大型捕獲檻



パイプライン用水管理装置
（集落営農組織体制の事例研修）

○多様な担い手の育成（就農支援・集落営農組織体制整備）

【取組】

- ①
 - ・ 認定農業者や農地所有適格法人の育成
 - ・ 高齢化と兼業化に対応した就農支援や、営農体制整備を推進
- ② 地域おこし協力隊や、I・Uターン就農の促進を図るため、組織間の連携や就農しやすい環境整備を推進
- ③ スマート農業や高付加価値型農業経営の推進
- ④ 学校と連携した、食農教育活動による次世代を担う人材の育成
- ⑤ 首都圏での就農相談活動

【成果】

- ①
 - ・ 重点支援対象選定に対するコンサルティング等：3人
 - ・ 集落営農組織体制整備に係る先進事例研修（1回）
- ②
 - ・ 新規就農者：2人（鬼北町、松野町で各1人）
 - ・ 研修生受入：3人（鬼北町2人、松野町1人）
 - ・ 就農研修検討会で情報共有（年2回）、研修メニュー（年8回）
- ③ 実証試験や各種講習会等を通じて、栽培技術が向上
- ④ 農林水産人による出前授業：小学校8回、中学校2回、高校1回
- ⑤ 農業・移住相談（東京・大阪）に対応：松野町12回、鬼北町7回



くりの自動航行ドローン
防除研修会
（研修メニュー）

○都市との交流促進（地域資源活用）

【取組】

- ・ 直売所等交流拠点を核とした「鬼のまち」「森の国」ブランドを育てると共に、拠点の整備・拡充や農林漁家民宿の開業支援
- ・ 農業の振興と都市住民との交流による地域活性化を推進
- ・ 他県の修学旅行生受け入れに向けた研修を行い、体制整備を支援

- 【成果】・ 修学旅行生受入：鬼北町・松野町で3校（5,10,11月）



修学旅行生の柿の収穫体験